

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|----------------|-------|-------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 368 号 | 氏名 | 宮崎 拓郎 |
| 学位審査委員 | 主査 | 澄川 耕二 | |
| | 副査 | 森 望 | |
| | 副査 | 篠原 一之 | |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| <p>1 研究目的の評価 本研究は、胸部手術における開胸術式の違いにより肋間神経損傷と術後疼痛の発症に差があるかを検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> | | | |
| <p>2 研究手法に関する評価 患者を術式別に 3 群に分け、疼痛程度を Visual Analogue Scale で、神経損傷を電流知覚閾値で測定したもので、研究手法も妥当である。</p> | | | |
| <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、開胸器を使用した群で有意に神経損傷と術後疼痛が大きいことが明らかとなった。今後、術後疼痛制御に関する研究への進展が大いに期待される。</p> | | | |
| <p>以上のように本論文は胸部外科学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p> | | | |